

広島に行って感じたこと 十四山中学校 まつした ももか 松下 萌々夏

【戦時中の食事体験】

私たちは1日目のお昼に「しげるくん弁当」を体験しました。見た目はおいしくなさそうで、食べたくないなと思いました。しかし、実際に食べてみると、予想以上においしかったです。でも、これを毎日食べると考えたら、私には絶対できないと思いました。この「しげるくん弁当」を食べたとき、私達がとても恵まれているということに気づいたし、毎日違うご飯をおいしく食べられているということは、当時当たり前ではなかったもので、これからは感謝して食事をいただきたいと思います。



【平和記念資料館見学】

資料館には、苦しんでいる写真・絵などがたくさん飾られていて、当時がどれだけ悲惨な状況だったのかがよくわかりました。私はその写真をちゃんと見ることができませんでした。展示物の持ち主がどんな思いで資料館に寄付したのか、私には一生分からないと思いますが、実際に広島資料館で見た展示物で思ったこと、感じたことを忘れずに、家族などに戦争のことを話して広め、また同じ過ちを起こさないように自分ができることを考えて行動しようと思います。

【この2日間を通して感じたこと】

この2日間で、戦争のことをたくさん知ることができました。今までは戦争は私には関係のないことだと思っていました。でも、研修を終えた今は、今回学んだたくさんを次の世代に受け継いでいかなければならない、と思うようになりました。周りの人に話してみたり、調べてみたり、自分が世界平和につながるアクションの第一歩を探し、どんどん広めていって、世界から戦争がなくなるように、世界中の人々と協力して、解決できるようにしたいです。世界中に広めるためには、まず日本が見本にならないといけなと思います。また、日本で広めるためには自分から行動する必要があると思うので、これからの未来のために、そして広島で学んだことを無駄にしないために、積極的に行動したいです。

平和を求めて 十四山中学校 さとう たくみ 佐藤 匠

【平和記念公園】

現地へ行ってまず知ったことは、1つ1つの物にとっても濃く濃いエピソードがあるということだ。平和の灯や時計のモニュメントなど、そのものの存在は知っていても、それらが表す意味は知らなかった。「この炎は地球上から核がなくなるまで消えない」や「原爆が落ちたときに多くの人の人生が終わってしまった」など、さまざまな思いが込められていることを知った。この公園自体が、平和を願う1つのモニュメントなのだと思う。この思いが広島から全国に、もっと広がってほしい。



【被爆ピアノ】

聴いてみて、思ったよりはるかにきれいな音だった。見た目も音も、被爆したとは思えないほどきれいで、もう一度聴きたいと思うほどだった。「このピアノは皆に置いていかれてしまった」という話を聞いて、このピアノを守り抜いていかなければいけないと思ったと同時に、もう二度とこういったかわいそうなピアノを生んではいけないとも思った。

【平和記念資料館】

入る前から、現実のものとは思えない写真が多そうだと感じていたけれど、やはり戦争当時の様子がすごくよく伝わることが多く、戦争のつらさがよく分かった。平和の大切さを知るためには必要不可欠だと感じられた。一刻も早く「平和が当然である」という認識を捨て、「戦争のような残酷なことがあってはいけない」と考えなければいけないと思った。今起こっている戦争の結末が、また同じようになってはいけない。日本に起きた惨事から学んで、平和に向けて動くことが大切だと思う。

【2日間を通して】

最も感じたことは、「平和は当然だと思うことをやめると同時に、しかし特別なことであってはいけない」ということだ。今ある平和に感謝して、この平和が長く続くように努力し、大切にしていきたい。

本校では、家庭や地域社会に学校の様子を知っていただくために「十西小だより」を発行し、家庭に配布したり、学校ホームページに掲載したりしています。今年度行われた行事の中から、「学校環境緑化モデル実施事業完成式典」・「国際交流」・「着衣泳」について紹介します。

学校環境緑化モデル実施事業(「みんなのおま森」事業)完成式典



4月27日(木)、学校環境緑化モデル実施事業(「みんなのおま森」事業)完成式典が行われました。愛知県緑化推進委員会や株式会社ローソンが行っている青少年環境教育事業として、今年度、本校に15本の木をいただき、植樹することとなりました。この事業は子どもたちに分かりやすくするために児童会が「みんなのおま森」事業と命名しています。各学年の代表者が植樹をし、足元の土をしっかりと固めました。根を張り、子どもたちとともに大きく成長してくれることを願います。

国際交流



7月6日(木)、愛知黎明高等学校が受け入れているアメリカ・カリフォルニア州マリナー高校の留学生12人を本校に迎えて、国際交流の一環として、本校の児童との交流会を開催しました。交流会では、全校児童と触れ合う「十西小フレンド集会」を行いました。集会の後は、3~6年生の教室で、それぞれ日本の文化に触れる体験活動を行いました。給食も一緒に食べ、記念写真を撮影しました。貴重な交流体験ができ、学び多き一日になりました。

着衣泳



7月14日(金)は、プール納めの日でした。この日、5・6年生は日本青少年赤十字社から講師の先生をお招きし、着衣泳を行いました。長袖、長ズボンを着用したまま水に入ると、かなり身体が重く感じられます。子どもたちは、もしものときの水の事故に対して人命を守るため身に付けておくべき知識と技能を習得する学習を行いました。